

## 子どものケンカに親が・・・出る？



こんなことはありませんか・・・？

4歳のまあくんは、お母さんと公園に遊びに来ています。大好きなブランコで遊びたいのですが、2つのブランコは他の子たちが使っています。先に待っている女の子が1人います。「次代わって。」と言って2人は待っていました。



しばらくして片方のブランコが空き、女の子が乗りました。もう一人の男の子は、なかなか代わってくれません。とうとう、まあくんはその男の子を「代わってよ！」と押してしまいました。押された男の子は泣き出してしまい、その子のお母さんがびっくりして走って来ました。

ワーク1

あなたがまあくんのお母さんだったら、どう対応しますか？ グループで交流しましょう。

---



---



---



---

ワーク2

子ども同士のトラブルで、困ったことや失敗したこと、心がけていることを交流しましょう。

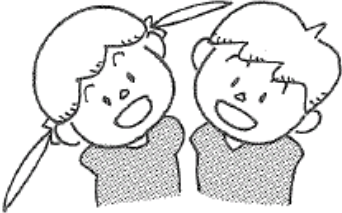
---



---



---



◇他の方の意見をメモしましょう！



いいね！



いいね！

今日気がついたこと、わが家でもやってみようと思ったことは何でしたか？



今日からぜひやってみてくださいね。お疲れ様でした。



この年齢は自分の気持ちを言葉で表すことがまだできないことが多いんじゃない。子どもの気持ちを理解して、どうするとよいのかを教えることが大切じゃ。相手への謝罪だけを考えるのではなく、けんかの中で学び、育つことがあることも知っておきたいのう。

親同士こういった事も確かめて一緒に遊ばせたいものじゃ。

## ◇けんかの中で育つもの

子どものけんかは、「できれば避けたい」という気持ちもあります。でも、けんかは子どもが自分の思いを存分に表す場でもあり、また、相手の気持ちなどさまざまなことに気づく大切な場でもあるのです。特に集団生活の中では、ぶつかり合うことも人間関係を広げるための重要な体験。同時に、みんなで生活していくには、決まりやルールが必要なことも学びます。おうちのかたも、けんかが起きないようにすることだけを考えるのではなく、起きたときにどうするかを考えるようにしましょう。その方が子どもの成長につながることもあるのです。また、けんかの原因となった場面に大人が居合わせなかった場合、原因や経過について根掘り葉掘り聞こうとしてしまいがちですが、これはあまり効果的ではありません。特に5歳以下では、当人同士もよくわかっていなかったり、うまく説明できなかったり、周囲にいる子の説明もあいまいなことが多いのです。こんなときは、子どもの説明に振り回されることなく、まず、一人ひとりの「痛み」を受け入れることが大事。そのうえで、大人が仲介しながら気持ちを静めていきましょう。大人のかかわりが子どもたちの判断基準のモデルになっていきますよ。

出典：ベネッセ教育情報サイト「啓子先生の成長サポートアドバイス」  
<https://benesse.jp/contents/eninfo/advice/no4.shtml>

